

●最近の県内経済

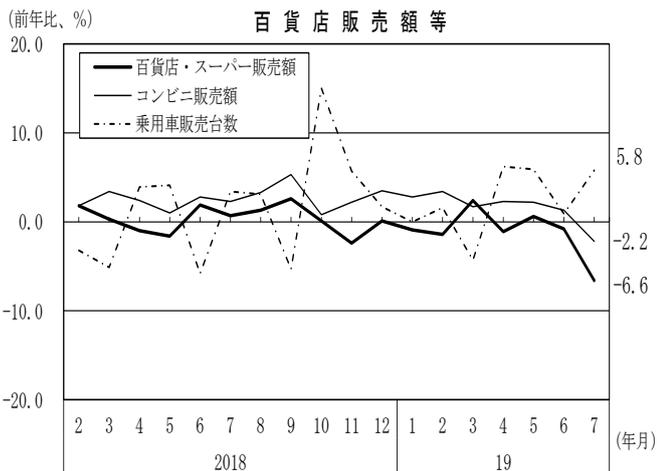
基調判断
(2019年7月を中心として)



今月の概要

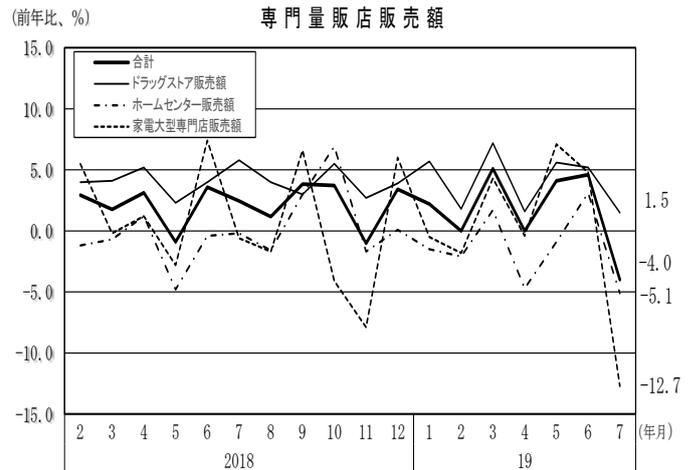
県内景気は、弱含んでいる。

1 個人消費 持ち直し



(資料)経済産業省、埼玉県自動車販売店協会など

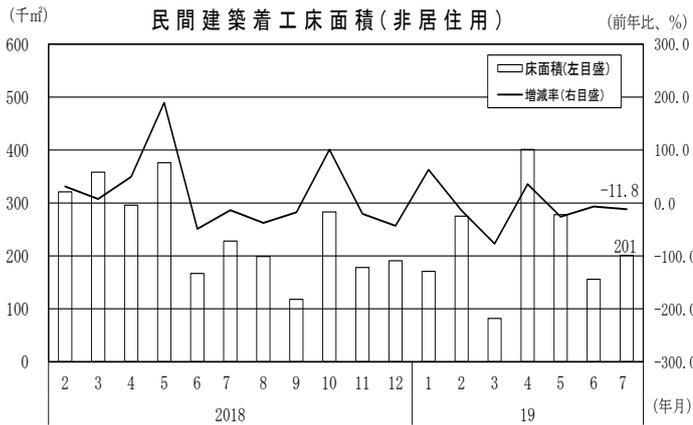
7月の百貨店・スーパー販売額(店舗調整前)は、長梅雨の影響等から823億円で前年比6.6%減となった。百貨店が同8.8%減と9か月連続の減少となったほか、スーパーも同6.1%減と3か月ぶりの減少となった。コンビニ販売も同2.2%減少した。乗用車販売(軽含む)は、同5.8%増となった。内訳をみると、普通車(同11.8%増)、小型車(同4.7%増)、軽乗用車(同0.1%増)ともに増加した。



(資料)経済産業省

7月の専門量販店販売額は、687億円で同4.0%減と3か月ぶりの減少となった。内訳をみると、ドラッグストアが348億円で同1.5%増加したものの、ホームセンターが168億円で同5.1%減となったほか、家電大型専門店は170億円で同12.7%減と3か月ぶりの減少となった。

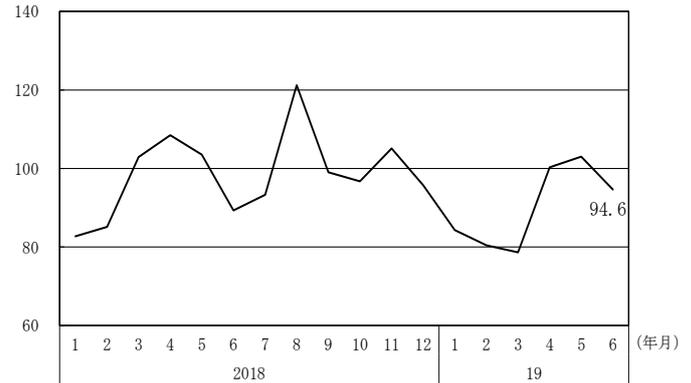
2 設備投資 弱含み



(資料)国土交通省

7月の民間建築着工床面積（非居住用）は、201千㎡で前年比11.8%の減少となった（年初来累計では同15.5%の減少）。用途別にみると、事務所、店舗は増加したものの、工場及び作業場、倉庫が減少した。

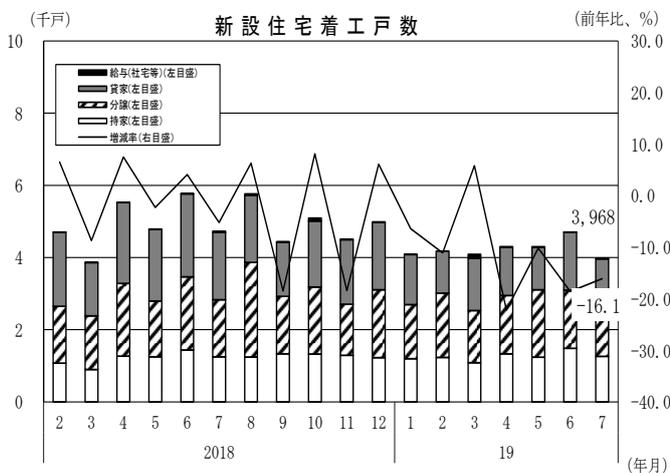
資本財出荷指数
(季節調整済) (2015年=100)



(資料)埼玉県

6月の資本財出荷指数（季節調整済）は、94.6で前月比8.2%の低下となった（3か月ぶりの低下）。

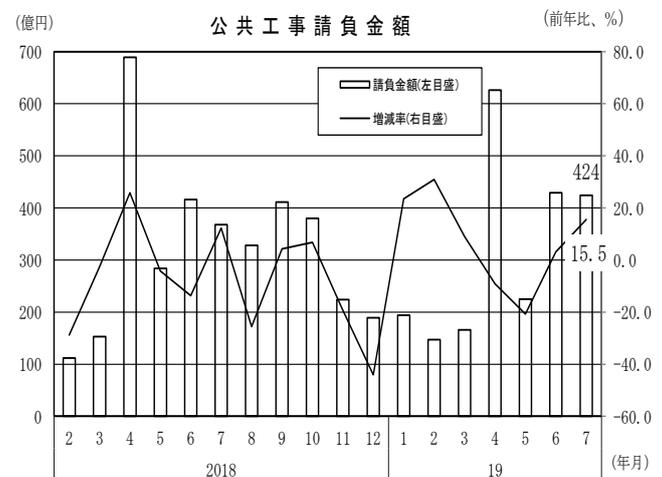
3 住宅建設 減少



(資料)国土交通省

7月の新設住宅着工戸数は、3,968戸で前年比16.1%減と4か月連続の減少となった（年初来累計では同12.2%減）。利用関係別にみると、持家が1,264戸で同1.1%増、分譲マンションが311戸で同22.9%増となった一方、貸家が1,303戸で同30.0%減、分譲戸建てが1,087戸で同17.7%減少した。

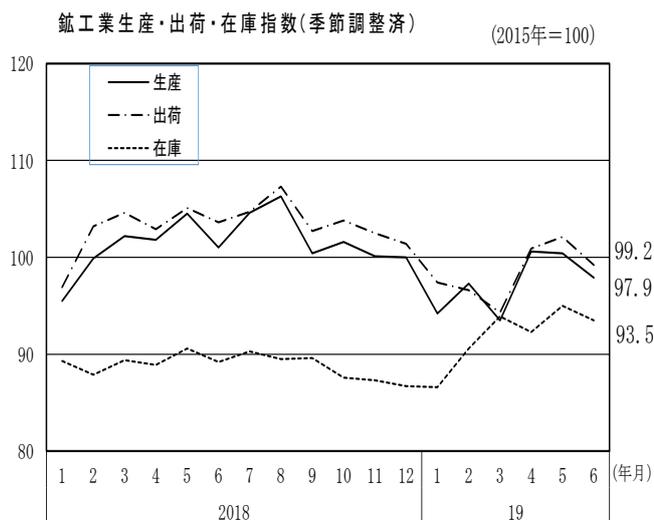
4 公共工事 横ばいの動き



(資料)東日本建設業保証株式会社

7月の公共工事請負額は、424億円で前年比15.5%増となった（年初来累計では同1.5%増）。7月単月を発注者別でみると、独立行政法人等が減少した一方、国、都道府県、市区町村が増加した。

5 生産活動 このところ持ち直し

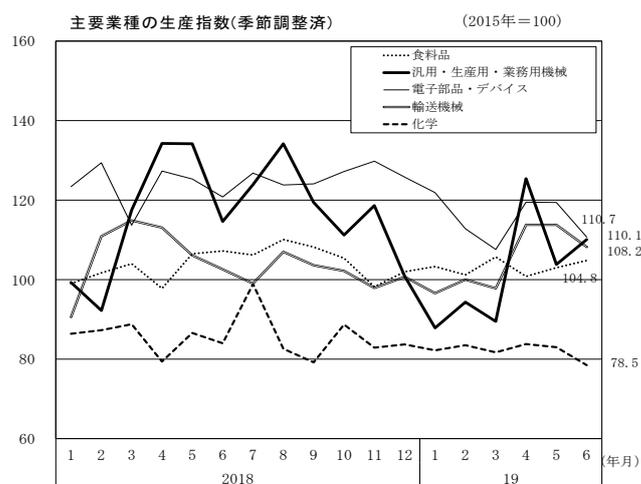


(資料) 埼玉県

6月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、97.9で前月比2.5%低下した(2か月連続の低下)。四半期ベース(4~6月期)では、99.6で前期比4.8%上昇した(3期ぶりの上昇)。前月比で生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置)、鉄鋼(鉄鉄铸件)などが上昇したが、業務用機械(医療用機械器具)、電気機械(電力変換装置)、化学(化粧品)などが低下した。

出荷指数(同)は、99.2で同2.8%低下した(3か月ぶりの低下)。鉄鋼(鋼製品)、印刷(オフセット印刷)などが上昇したが、業務用機械(医療用機械器具)、生産用機械(半導体製造装置)、輸送機械(普通トラック)などが低下した。

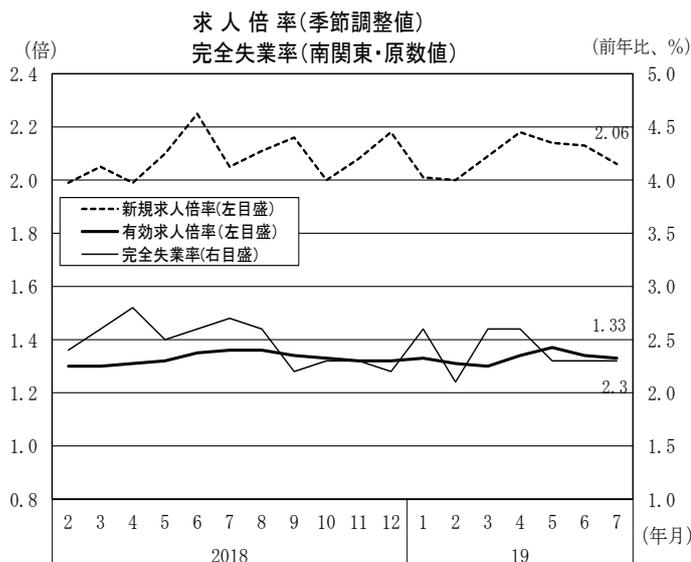
在庫指数(同)は、93.5で同1.6%低下した(2か月ぶりの低下)。パルプ・紙・紙加工品(段ボール原紙)、鉄鋼(小形棒鋼)などが上昇したが、電気機械(キッチンヒーター)、化学(印刷インキ)などが低下した。



(資料) 埼玉県

- ◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、104.8で前月比1.7%上昇し、2か月連続の上昇となった。
- ◆ 汎用・生産用・業務用機械(同)は、110.1で同6.1%上昇し、2か月ぶりの上昇となった。
- ◆ 電子部品・デバイス(同)は110.7で同7.3%低下し、2か月連続の低下となった。
- ◆ 輸送機械(同)は、108.2で同4.9%低下し、3か月ぶりの低下となった。
- ◆ 化学(同)は、78.5で同5.4%低下し、2か月連続の低下となった。

6 雇用情勢 着実に改善

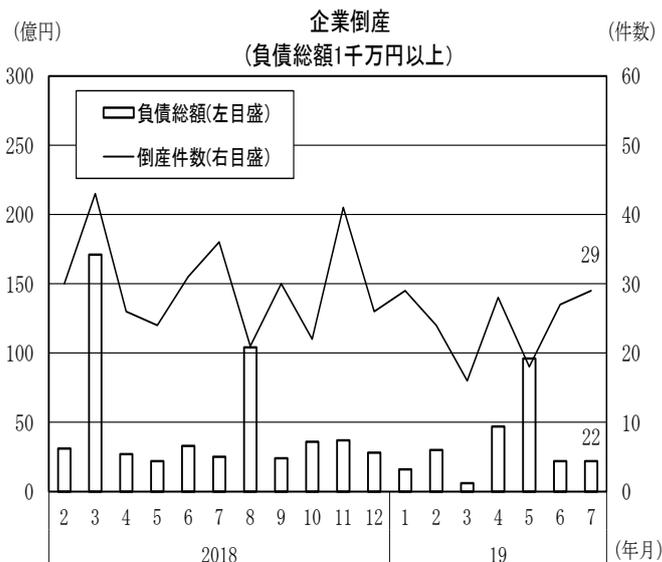


(資料)厚生労働省、総務省

7月の新規求人倍率(季節調整済)は2.06倍で前月比0.07ポイント、有効求人倍率(同)は1.33倍で同0.01ポイント、ともに低下した。

完全失業率(南関東、原数値)は、前月比横ばいの2.3%と低水準で推移している。

7 企業倒産 低水準



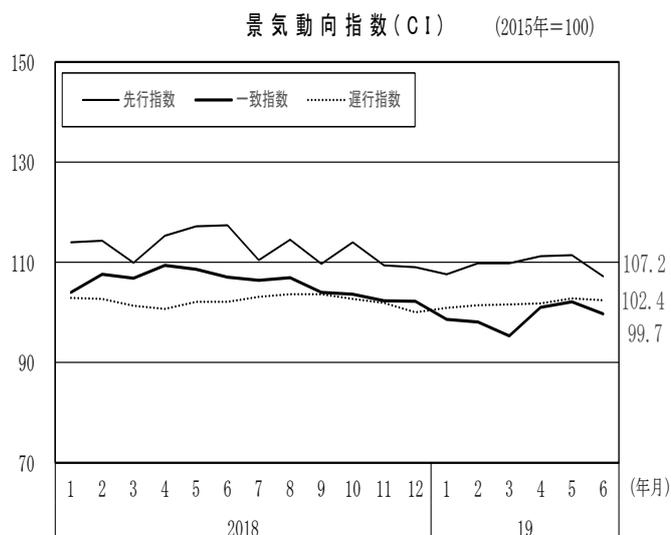
(資料)帝国データバンク

7月の企業倒産件数は29件で前年比7件の減少、負債総額は22億円で同3億円の減少となった。

業種別にみると、小売業が10件で最も多く、次いで卸売業が7件、サービス業が6件となっている。主因別では、販売不振が22件で最も多くなっている。

〈参考〉

景気動向指数(CI) 下げ止まりを示している



(資料)埼玉県

6月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、99.7で前月比2.4ポイント低下し、3か月ぶりの低下となった。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、107.2で同4.2ポイント低下し、5か月ぶりの低下となった。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、102.4で同0.4ポイント低下し、6か月ぶりの低下となった。